

報告書

設立 20 周年記念事業「カルデラ物語」絵本作成に関する事業

立山砂防女性サロンの会
会長 尾畑 納子

1. 活動の目的

近年、地球温暖化をはじめとする環境の変化によって、様々な自然災害が各地で発生している。こうした現象が私たちの暮らしに顕著に表れる少し前の平成 13 年 11 月に「立山砂防女性サロンの会」が設立された。そして、令和 3 年 11 月に 20 周年を迎えることができた。当会は、通常一般人が入ることができない立山カルデラ内での崩れの状況や土砂災害を防止するための砂防工事の状況を視察し、作業される方々の話を聞くことによって、平野部の土砂災害を防止していることを知り、砂防事業の大切さを周囲の人々に伝えること、また同時に災害に対する備えと防災意識の啓発活動を行ってきた。これまでは、家族や周囲の人々へ語り継ぐ活動を推進してきたが、自然災害が今後さらに多発していくことが予想されることから、未来の子供たちへの防災教育、ふるさとの伝承を通して、持続可能な社会の創造につなげていくことを願い、わかりやすく伝えることができる、「語り部絵本」を 20 周年記念事業として作成することにした。



写真1 吉友アドバイザーの講演の様子

2. 活動内容

絵本作りに当たり、対象者、どのように伝えるのか。わかりやすく、印象に残るようになど編集委員会を編成して制作することとした。しかし、新型コロナウイルスの感染拡大により思うように活動ができなかったが、立山カルデラ内の現地視察を 3 回実施し、現在の状況の把握、砂防施設の根幹となっている、国の重要文化財指定の泥谷砂防堰堤、白岩砂防堰堤、本宮砂防堰堤を中心に設計者赤木正雄氏の業績、現在もその役割を果たしている昭和初期の防災遺構についての説明の方法を検討した。これらの砂防堰堤がカルデラ内の土砂流出を防いでおり、そのことで富山



写真2 カルデラ内の崩れと砂防工事

平野の土砂災害が防止されていることを子供向けに表現し、富山県の地形的特徴と災害発生の関係について注視してもらえるようにすることを目指した。

常願寺川流域に見られる土砂災害の痕跡、民家に見られる防災対策などが現在も見られることに注目した。常願寺川の河原に今も残る巨石の存在や民家の川に面した方角に木を植えたり、石積を施して浸水を防いだことを紹介し、先人の知恵を知らせることに心がけた。

こうした視点を表現することができる挿入絵の作者の模索は地域を知る県内の作家に依頼することを決め、立山カルデラ内、立山カルデラ博物館、常願寺川流域などを視察した上で、昨年9月に決定した。

紙芝居風に絵コンテを作成し、災害の歴史、災害を防止するための砂防堰堤、富山県と石川県の分県、砂防法の改正と国家事業となる経緯、赤木正雄氏の業績など時系列と今も働く白岩砂防堰堤や本宮堰堤などの役割について説明し、災害を防止していることを中心に説明する。

最終章では、今も現役として働く施設の泥谷、白岩、本宮の3堰堤に加え、まだ崩れが続く立山カルデラ内での砂防堰堤の工事は最新のIT技術を取り入れながら、今も人の手によって続けられ、私の命を守っている。さらに、こうした歴史的防災遺構は、新しくつくられた堰堤と共に、現役の防災施設として働いている。これら一連の防災施設を富山県の宝として世界遺産への登録を目指している点も紹介し、砂防事業を通して子供たちの未来のための防災教育の一助としたい。

絵本はまだ印刷が終了していないが、すでに地元の小学校から地域の防災教育の一環として語り部の要請を受けており、完成すれば県内の教育機関等に配本し、会員自らが絵本を用いて、実際の語り部として活動を行いたい。

謝辞

本事業の実施にあたり、(一社)北陸地域づくり協会「北陸地域の活性化」研究助成を受け遂行することができました。感謝申し上げます。さらに立山砂防事務所、関連企業の技術者の皆様、富山大学名誉教授の竹内章先生のご助言を賜り感謝申し上げます。



写真3 民家の石積み



写真4 民家の石積みの挿絵



写真5 絵本の編集委員会の様子